

令和6年度「自己評価結果」報告書

学校法人華泉学園
花泉こども園

当園では、令和6年度の学校評価として、教職員自己評価を実施致しました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返る事で、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I 教育目標

1. げんきであかるく、すなおな、こどもになろう。
2. よくみ、よくきき、よくかんがえる、こどもになろう。
3. きまりをまもり、いたわりのきもちをもつ、こどもになろう。

II 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

III 評価項目と取組状況

自己評価項目			取組状況	
教育方針・目標	1	園の教育方針や目標、保育のねらいや内容について、保護者の理解を促すよう取り組んでいる。	B	・登園、降園の挨拶をしっかりとするよう、呼びかけている。 ・一日入園の際、新入園児の保護者に向け話している。
教育課程の編成	2	園の教育課程は、社会状況や園児の実態、地域性などを考慮しながら、必	B	・保育にねらいを持ち成長にあった保育を心がけ、研究や事例発表を行った。

		要に応じて見直しが行われている。		・一年間の反省をし、年間計画を立てるようにしている。
指導計画の作成と評価	3	互いに保育を見せ合って、点検し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	C	・実践を見せ合い疑問や気付いた事など話合いの場を持ち、幼児の成長と照らし合わせた。
教育環境の構成	4	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	B	・子どものやりたい気持ちをくみとり、素材を用意してきた。 ・危険があるものに関しては、職員でよく話合いの場を設けた。
	5	異年齢の幼児が自然に交流し、学び合えるような環境を構成している。	B	・毎日、全園児が一緒に戸外で遊ぶ時間があり、自然と年長児が年少の世話をする姿が見られた。 ・週に一度は、合同保育を行っている。
教職員同士の協力・連携	6	教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているよう様々な工夫をしている。	B	・気になる園児がいる時や問題が起きた時などは、職員で情報を共有し、対策を考えて行くようにしている。
研修・研究への取り組み	7	研修を修了した教職員が、研修の内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがあり、機能している。	B	・レポートや資料などの提示等で伝え職員間で理解し実践できるようにしている。
	8	医療専門機関と連携をはかりながら、障害のある幼児に対する保育のあり方について研修・研究を行っている。	B	・市の保健センターや専門機関と話合い、連携を図りながら方向性を導いてもらうようにしている。
安全管理体制の整備	9	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	C	・緊急時の流れを誰でもわかる場所に掲示し、緊急時あわてる事が無いようにしている。
	10	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所を職員間で話し合い遊び方によっ	B	・ヒヤリハットの活用、園内の危険箇所を職員間で話し合い遊び方によっ

		所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。		て危険が伴う時には改めて確認を行っている。
	11	設備・施設は常に整備され、室内は清潔で整理整頓が行き届いている。	B	・子ども達が登園する前や降園後などに掃除や片づけを行いまた、感染予防対策として定期的に園内施設、遊具等塩素消毒を行っている。
保護者との協力と支援	12	保育参観や保護者会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	C	・保育参観やクラスだよりで、子ども達の園での様子を伝えている。
地域への開放と支援	13	地域開放や子育て支援のあり方について、教職員間で話し合っている。	C	・チラシ、ポスターホームページなどを通し、地域へ園開放を知らせている。 ・地域に根ざした施設とし、来園された方が心地よいと感じられるよう努めている。
	14	園がもつ専門的な技術や情報を、地域に開放・提供している。	C	・敬老会や老人ホームに行き、歌ったり踊ったり演技を披露し地域の皆さんと交流する機会を大切にしている。 ・地域の文化祭や福祉まつり、商店などに絵画や製作物を展示している。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている。
C	取組まれているが、成果が十分でない。
D	取組が不十分である。

IV 今後取組むべき課題

教育方針・目標	個々の様子など年に3度くらい個人面談を行い、話し合える場があればよい。
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会状況や地域との関わりを良い形で深めて行けたらよい。 ・計画を立てる時期をもう少し早めに行い反省を生かせるようにしたい。
指導計画の作成と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・個人記録、クラスの様子などを細やかに取り、気付いた点など職員間で話し合う時間が多く持てればよい。 ・各クラスの保育を見せ合い学ぶ機会を増やしたい。
教育環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材にふれ、アイデアを出し合い、楽しく活動できるような環境構成を考えて行きたい。 ・室内あそびの際、他の保育室に自由に出入り出来るようにしたい。
教職員同士の協力・連携	・個々の成長や発達に合わせた細やかな記録や情報交換、意見交換の場を多く取り入れたい。
研修・研究への取組み	・研修が終わった後、園の実態に合わせた取り組みが出来るようにしたい。オンライン研修の再配信の活用
安全管理体制の整備	・緊急時の怪我等、病院などに付き添う場合、臨機応変に対応して行うべきだが、しっかり対応出来る立場の職員が決まっていた方がよい。
保護者との協力と支援	・個人面談等などお互いの意見や伝えあう場を設けて行きたい。
地域への開放と支援	子育て支援の担当職員を配置し、一緒に遊びながら気軽に保護者が子育ての悩み相談を行える雰囲気を大切にしたい。